

神戸市会 会議録

2007.10.05 : 平成 19 年決算特別委員会第 1 分科会〔18 年度決算〕(市民参画推進局等)

本文

(一部抜粋)

58 : 分科員(北山順一)

分科員(北山順一) それでは、市民参画推進局について、質問をさせていただきたいと思います。質問の前に、後で言うことを先に言っておきますが、市民参画推進局というのは、私は市政の中で非常に大事な分野を受け持っており、こういうことで、大いに頑張ってもらわないと、神戸市民のためにいろいろな支障が出てくるのではないかなと、こういうふうに思っております。例えば男女共同参画社会の実現のために努力をしておりますし、仕事と家庭の両立支援を一生懸命やっております。こういうことから考えて、いわゆる私どもは前々から言い続けております子育て日本一のまちをつくるんだと、こういう立場から言えば、育児休業から復帰する女性や男性に対して、職場復帰の準備支援は大変重要なことをやっていると、こういうふうな意味で、安心してそういう人たちが職場に復帰できる仕組みをきっちりとつくり上げてやっていただきたい、こういうふうに思っております。

それから、またハッピーパックという事業がございます。このハッピーパックにしましても非常にいいことなんですけれども、資料を見ておりますとなかなか伸びがない。これが私は問題だと。こんないいことがあるのに何で伸びないんやと。もっと伸ばしていく努力をしていただきたいということを要望しておきたいと思います。

それでは、2点質問いたします。

まず、デザイン都市の取り組みについて、この4月から企画調整局でデザイン都市推進室が設置をされております。デザイン都市の推進ということは、今までいろんなコンパクトシティだとか、それからファッション都市だとか、いろんな名前で頑張ってまいりましたね、アーバンリゾート都市とか、こういうふうなことも言って。そういうふうなものにさらに加えて、文学だとか、映画だとか、音楽だとかあるいは民俗芸術、メディアアート、グルメ、こういうものを加えていって、そして新しいこのデザインのまち神戸をつくらうとしていらっしゃるわけでありまして。そういうふうなものをつくっていく上において、さらにもう1つ、心のデザインということをおつけ加えていただきたい。この心のデザインというたら、何かつかみようがありませんけれども、市民参画推進局がやっております美しいまちの推進ということ、このこと自体が、すなわち心のデザインだと、こういうふうに私思っております。このデザイン都市構想について、企画だけに任せておくのではなくて、あなた方のこの市民参画推進局がどんな役割を果たしているんだと、局長の意気込みをお伺いいたします。意気込みでございます。よろしくお祈いします。

次に、市民相談についてお伺いいたします。

市民は何か困ったことがあったりすると、身近な相談先としてまず区役所に行くことが多いんです。ここに相談したらよいのかわからないときには、行政といえば区役所の窓口ということになってきます。しかし窓口では十分に答えが得られないことも多々あります。その後で弁護士に相談することになってくる

わけであります。市民参画推進局で行っております市民相談、これは市役所本庁と各区役所で受け付けておいて、市民にとっては非常に頼りになる相談窓口であると考えております。しかしながらこの相談にかける時間が大変短いんだと。もうちょっと長くしてくれたらいいのになという声をよく聞くであります。弁護士などの専門家に相談できる機会でもあるので、どのような利用状況になっているのかをお伺いしたい。相談人数の実績は何人ぐらいあるんだと。何人の弁護士、そういう人たちに対応してもらっていると、こういう体制についてもお伺いをいたしたいということでございます。

以上です。

59： 永井市民参画推進局長

永井市民参画推進局長 北山委員の質問はいつも難しいんですけども。ちょっとずれますけども、実は私、広聴課長をしているときに、平成8年、震災の後でしたですけども、そのころ全世帯調査アンケートというのをやっております、毎回聞いている質問に神戸への愛着度、神戸に住み続けたいかどうかという意識を聞いておまして、実は震災の前から、他都市に比べて神戸への愛着度が神戸市民は物すごく強いわけですね。90%近くあったわけです。それが震災の後、同じ質問をしたところ、私はもう完全に減るといふふうに思っておったんですけども、5ポイントぐらい上がったわけです。非常にこれは私もびっくりしたわけですけども、なぜ住み続けたいかということの分析をやったところ、一番多いのが、やっぱり大都市でありながら山と海に囲まれたヒューマンスケールな、人と人のある程度顔が見える規模の都市だといふようなこととか、あるいは東西交通が非常に便利なまちだとか、生活文化が非常に豊かだとか、そういうふうなことが理由の1つになっておったということをお記憶しておりますけども、そういう神戸の持っている資源とか魅力とかそういうものを都市のアイデンティティーを強めるという意味で、もう1度その持っている資源・魅力に価値といいますか、工夫を凝らすということが、この都市戦略としてやっていこうということがこのデザイン都市の構想ではないかなという気が、私自身はそういうふうには理解したらいかなというふうには思っておりますけれども、非常に幅広い分野にわたってデザインというのをとらえておるといふ今回のやり方でございます。ハードの部分からソフトの部分、いわゆる空間、景観の部分、それから暮らし、ライフスタイルですか、文化の部分、それから物づくりの経済の部分、そういったオールラウンドな分野にわたってデザインというものをとらえておると。そういうものを3つ丸でくくったときに、真ん中の重なる部分というのがあるわけですけども、その重なる部分が、先生がもしそうだとということであれば、心の部分かなと。空間においてもあるいは文化においても、物づくりにおいても、何か人と人との接点を求めるといいますか、感動を与えるような、そういうものを模索すると。そのデザインをつくるために人の心といいますか、そういう内面の部分が非常に大事だろうといふようなことかなと思っております、いわゆる人の心の豊かさ、すなわちおもてなしの心あるいは他者への思いやり、我がまちへの誇り・愛着、そういったものがデザイン都市を推進するために必要なことだろうといふふうに考えております。

我々の方の局でやっております、先生がおっしゃった美しいまち神戸でございますけれども、これについては、いわゆるハード面をやっておるものではございませんで、いわゆるまちに住む人、神戸に来た人、心地よさを感じてもらえるようなまち、あるいは自分たちが住むまちに対して誇りや愛着を感じてもらえ

るようなまち、こういったものを目指して、従来からクリーン、グリーン、ホスピタリティ、こういったものを中心に全市的に取り組んでおるものでありまして、まちの美しさというのは人々の心を豊かにするわけでございますし、まさに先生おっしゃるような心のデザインに向けた取り組みということも言えるのではないかなというふうに思っております。

具体的に市民参画推進局の方の美しいまちというのは、局自身が平成15年度から協働と参画のプラットフォームを拠点にしまして、社会実験としてこの美しいまちに取り組んでおりまして、ごみ問題、落書き、放置自転車、美しいまちを阻害するようなそういった要因となるさまざまな地域課題に対しまして、地域やNPO、行政が協働で課題を解決するという取り組みを始めておりまして、先ほどもお答えしたように、これまでに8つの地域で協働プロジェクトを実施してきております。例えば野田の例も先ほどありましたですけども、ああいう美しい駅前空間づくり、こういうものを目指して取り組みをしたわけでございますし、その成果が放置自転車対策とあわせて子供の見守りやごみの問題、こういった対策などを行うことによりまして、結果的に中島部長も言いましたように人と人との結びつきを深めて、生活マナーの向上を図るというふうな効果もある、おもてなしの心あるいは他者への思いやり、こういった意識をこのいろんな活動を通じて地域の人々に醸成をしたのではないかなと。その結果、地域に住む人々が我がまちへの愛着・誇りというものを一層深めるきっかけになったのではないかなと。心の豊かさにつながる取り組みになっておるんだろうというふうに我々の方は思っております。

デザイン都市・神戸の推進というのは、非常に先ほども言いましたように景観から生活文化まで幅広い概念でございまして、ハード・ソフト両面にまたがる事業でありまして、市役所全局で取り組む重要な施策であるというふうに理解をしております。所管になるデザイン都市推進室の方と一体で我々の方も取り組んでいきたいと思っておりますけども、我々の方はデザイン都市のいわゆる基盤整備と言える部分、美しいまち神戸がそういう部分だろうと思っておりますけども、そういう基盤整備の部分を受け持っていくという理解で一層推進してまいりたいというふうに思っておりますので、ご理解いただけたらと思います。

60： 杉本市民参画推進局参事

減少し、全体的にもそうですが、園によっては集団保育の効果が十分達成できないなどの課題があったことから、平成7年度から15年度にかけまして、主に市街地の幼稚園で統廃合を実施いたしまして、適正規模のおおむね20人以上でございしますがの児童数を公立幼稚園確保するとともに、公立幼稚園全園において2年保育を導入したところでございます。これによりまして、70園ありました公立幼稚園は現在46園になってございまして、1人当たりの園児数も、平成7年度の平均42人から15年度には73人に増加してございます。集団保育に必要な一定規模の園児数を確保するとともに、できるだけ効率的な運営を図ってきたところと思っております。

現状でございまして、少子化の進展に加えまして、共働き家庭の増加というのがございまして、保育所に通う子供様が年々ふえるなどしまして、19年度の私立幼稚園全体のあき定員は4,300人でございます。

61： 分科員（北山順一）

分科員（北山順一） 局長さんの方からも、私の思っておったご答弁いただきました。そのいわゆる心のデザイン、美しいまちの推進、私この心のデザインというのは人と人の結びつき、あるいは地域と地域の結びつき、これが一番大事だと思っております。この結びつきそのものは、やっぱり私はコミュニケーション、これが豊かなまちでなければならないと、そういうふうに私は思っております。その仕掛けをつくっていくのがこの市民参画推進局だと、こういうふうに思っておりますので、今局長がおっしゃったような方向は、もう私はその方向で一番いいと思っておりますけれども、やっぱり市民参画推進局としてはこの方向を貫いて、このデザイン都市・神戸の主役を担うんだと、こういう決意で頑張ってくださいますようお願いをいたしますけれども、決意も聞かせたいと思っております。

それから、今の市民相談につきましては、私は30名程度というのは全市ですね。神戸市役所だけではないんでしょう。

62： 杉本市民参画推進局参事

杉本市民参画推進局参事 本庁だけです。

63： 分科員（北山順一）

分科員（北山順一） ここだけですか。私は全市の各区役所でどれだけあるのかということも含めてご答弁いただきたいと思っております。最初に、まず区役所へ行きますし、区役所も週に1回か2回やりますね。そういうことについての数字もあわせて教えていただきたい、そういうふうに思っております。

以上です。

64： 主査（梅田幸広）

主査（梅田幸広） 時間が押してます。簡明をお願いします。

65： 永井市民参画推進局長

永井市民参画推進局長 デザイン都市の推進については、デザイン都市推進室と一体になってやっていきたいと思っておりますし、我々の方は、先ほどご答弁したように基盤整備の部分、それを担うということで、決して主役ではなくて、もう黒子に徹したいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

66： 杉本市民参画推進局参事

杉本市民参画推進局参事 失礼しました。区役所の相談利用件数でございますけれども、週1回各区役所で行ってございます。少ない区では1回当たり12名程度のご利用をいただいております。多いところでは1回当たり20名程度でございます。各区役所でも、原則として私ども市民相談員を2人あるいは3名投入させていただきまして、前さばきをさせていただいているところでございます。

以上でございます。

67 : 分科員（北山順一）

分科員（北山順一） 終わります。だけど、頑張っていたくのに黒子はだめでございますんで。